

令和6年6月25日 区長記者会見

【司会】

皆さんこんにちは。

【やまだ区長】

こんにちは。

【司会】

定刻となりましたので、ただ今から令和6年6月25日北区長記者会見を開始いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私、広報課長の窪田でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、やまだ区長のほか、政策経営部長の藤野と、企画課長の栗生、しごと連携担当課長の新庄が出席をしております。

それでは早速ですが、やまだ区長、お願いいたします。

【やまだ区長】

皆様こんにちは。令和6年6月の定例記者会見を開始したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。また、本日もお忙しい中、大勢の記者の皆様にお集まりをいただき、本当にありがとうございます。

今月の記者会見トップページはご覧いただきますと、ご承知のとおり渋沢栄一翁です。

いよいよ7月3日水曜日、北区ゆかりの偉人、渋沢栄一翁が肖像となる新一万円札が発行となります。それを記念し、6月の定例記者会見、表紙は渋沢の写真と、また新しくなる新券の一万円札のサンプルを載せさせていただきました。渋沢翁に関する取り組みにつきましては、会見の中でも一番最後の項目でお話をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

はい、それではですね、今日は8項目についてお話をさせていただきたいと思っております。

まず二つが「区民サービス No.1 の行財政改革」について、二点お話をさせていただきたいと思っております。

一点目は、プロによる攻めの広報戦略というタイトルで、今年度から、戦略的広報、ブランディングを行っていききたいというふうに考えております。

4月の組織改正におきましても、これまでのシティプロモーション課から、ブランディング戦略課という形で名称を変更いたしまして強化を始めております。

今回お話をさせていただきますのは、ブランディングアドバイザーの外部人材の登用であります。

これまでですね、区といたしまして、シティプロモーションという形で、区民の方々への北区の資源、そして良さ、サービスや魅力を広く知っていただくためのシティプロモーションを中心に行ってまいりましたが、今年からはそれをさらに前に進めるべく、ブランディングを行っていききたいというふうに考えております。

これまでの北区の魅力やサービス、資源などを、区民の方々やもちろん区の職員、そして区内事業者、それぞれみなさんとともにですね、一つの方向性やブランドを築き上げて、そのもとでそれぞれが発信していくというような形で北区のブランディングを行っていききたいというふうに思っております。

また、そのブランディングアドバイザーの登用といたしましては、やはり専門人材ということで、高度な知識を有する方々に来ていただきまして、7月2日から募集を開始いたします。

アドバイザーに期待する範囲といたしましては、今年度、北区のブランディング戦略のビジョンを策定していきます。

その策定に関するアドバイスや、これはですね、ブランディングと広報課合わせた庁内のセクションの人たちにアドバイスをしてもらうということが一つと、あともう一つ、庁内でいけばですね、広報やシティブランディング戦略課だけではなく、全庁的に北区の魅力として、それぞれの課が有するいろいろな資源をですね、区内外に発信をしていくという感覚をぜひ身につけて、事業の取り組みの中でも扱ってほしいなという思いがありますので、全庁職員に向けての研修会、勉強会、またそれぞれの部署でブランディングやその発信をしていく際に、PR、発信をしていく際に相談を乗ってもらう。そのような役割がもう一つ。

そして三つ目が、区民、また区内事業者の方々に向けても、アドバイザーとの連携の中で、ぜひ区内事業者の方々が何か製品をつくって発信していくときに、北区とのコラボレーションの中でプラスアルファになったらいいなというふうに思っています。

こういったシティブランディングの視点で戦略的な広報を行っていくことによって、北区をさらに広く発信をしていくこと、これを目的としております。北区の価値をさらに高めていきたいなという思いで、今回、特別職の非常勤職員1名を採用いたします。

採用の募集の仕方なんですが、ビズリーチで募集をしてまいります。先日、私ビズリーチの取材も受けまして、どんな方に来てほしいという思いも直接お伝えをさせていただきました。北区と一緒に熱い思いで発信していただく、そんなプロの方をお招きをしたいと思っております。

そして、そのプロの方のノウハウ、そして技術をですね、職員が学び、自分たちで活用していけるような、そんな取り組みにつなげていけたらなというふうに思っております。

7月2日からの募集、そして9月の1日から務めていただく予定であります。

二点目がですね、更なる財源確保へということで、昨年来、大きな主要政策の中の行財政改革の中では、「稼ぐ区役所」と掲げまして、区有地の有効活用、少しでも遊ばせる期間を短くして活用していこうですか、そういった取り組みも昨年来始めています。

その一つとして、公金管理委員会で昨年度話をしていただきまして、検討いただきまして、これまで基金運用の割合、債券の購入は10%以内にという定めがありました。これをですね、今年度からは10%から15%に拡大をいたしまして、少しでも安定的な、安全を確保しながらも歳入の確保に努めていくことを目的としております。

安全性確保の観点から、公共債、主に地方債を中心に購入をしてみたいと思っております。公金管理委員会の方々や証券会社等からの情報収集をし、検討して購入をしてみたいです。現在、流動性の高い大口定期が9割、約780億円を占めておりましたが、この割合を少し縮めまして、これまでですね、10%、5%増やしていくことで、今年度は約10から20億分の債券購入を目指しております。

今回、都市再生債券を1億円購入する形で、これはですね、サステナビリティ債券としてSDGs債を1億円購入してみたいです。5%債券割合を増やしていくことで、約1,000万、その内容によりますが、収入としては1,000万円程度の増を目指して1年間取り組んでいきたいなというふうに思っています。

少しずつではありますが、さまざまな区の資源を有効活用していく、この部分では基金の運用も大切な視点だというふうに思っております。大切な税金ですので、安全をしっかりと確保しながらも、少しでも増やしていくことに努めていきたいなというふうに思っております。

そして、次のページ、三番目になります「つながる医療・福祉 No.1」の北区であります。

これまで北区といたしまして取り組んできた自殺予防対策の強化を図って、今年度から図ってまいりたいと思います。

平成18年に国として自殺予防対策の法律ができました。自殺対策基本法の設置の中で、各区市町村でも計画を立てていくことが定められておりますが、区としましては、これまで「ヘルシータウン21」という健康施策の計画の中で位置づけをいたしまして、その一つとして自殺対策の計画を位置づけておりましたが、これからはですね、やはりコロナ後で、ずっと区内では大体60名ぐらいの自殺者の方がいらっしゃいました。その数字が少し増えてきているという様子も経過もありますので、しっかりとした対策を強化していくべきだという考えから、これからは「ヘルシータウン21」の中の一部の計画ではなく、自殺予防対策を別立てで計画を立てていくことを目指し、今年度取り組みを強化していきたいというふうに思っております。

その中で、まず区として取り組みますのは、首長である私が本部長となりまして、庁内の対策推進本部を立ち上げました。そして、区役所とは別で、関係団体、関係機関、また専門家の方々、民間の方々の協議会を設置をしてみたいです。これが今お示しの「北区いのちを支えるセーフティネット協議会」であります。

やはりこういった対策を行っていくには、民間の方々、そしてそういった専門で取り組まれている方々のお力を借り、意見をいただきながら対策をつくっていくことが重要だと思っております。そういった意味で、協議会を持たせていただきます。専門家によるサポートを強化してい

く、この取り組みが一番今回区としては大きな思いがあります。

まず、竹島委員ですが、竹島先生に関しましては、まさに自殺予防対策の第一人者の方であります。現在、川崎市総合リハビリテーション推進センターの所長を務められています。そして、お二人目がですね、救急医療の専門家であります帝京大学の三宅委員、三宅先生にお務めをいただきます。そして三人目が山内先生、東京慈恵会医科大学の先生であります。先生に関しましてもさまざま専門的な知識を有しているということで、この専門家によるサポートのもとで、区内の団体の方々や区民の方々のご意見をいただきながら、具体的な取り組みについての協議を行っていただき、区として将来的な自殺予防対策の計画を、総合計画をつくっていきたいというふうに考えております。

加えて、今年度はですね、具体的な対策の強化も行っていきたいというふうに思っております。令和 6 年度は従前の自殺予防対策、予防週間等における講習会やキャンペーンに加えまして、庁内での連携体制の強化、庁内での勉強していくためのつなぐシートというような、そういったものも検討しておりまして、連携の仕方を模索していくこと、また、ゲートキーパー研修を体系化しまして育成目標を設置するなど、より多くの方々にゲートキーパー研修を受けてもらえるような体制整備をしていきたいというふうに思っております。

まず、区の職員としましては、健康部、福祉部において、初級、中級、上級とそれぞれの研修をしっかりと受けていただき、研修のモデル的な実施を行っていきたいなというふうに思っています。一人でも多くの方々が誰かの目に触れて、少し悩んでいたものが解決をして留まってもらえるような、区内全体でサポートし合える、そんな体制づくりを目指して、自殺予防対策を行っていきたいというふうに思っております。

続きまして、四点目であります。四点目は、北区ビジネスプランコンテストの実施であります。これまで一般枠としてビジネスプランコンテストは行ってまいりました。4 回行っておりまして、今年度で 5 回目となります。

今年度の大きな変更点は、やはり学生枠を、学生部門を新設をしたという点であります。スタートアップ支援を行っていくという意味では、令和 5 年度も起業家の方々からの講演会、学生の皆様にお集まりいただき、講演会を実施したり、起業体験講習を 3 回行うなど、これまでもですね、昨年は学生の皆さんに対して、区としてさまざま東京商工会議所や信用金庫の方々のお力をいただき、実施をしてまいりましたが、より一歩踏み込みまして、中・高・大・専門学校、それぞれの皆様、中学生も含めてです。ぜひビジネスプランのコンテストに参加をいただけるようご案内していきたいなというふうに思っています。

今回、学生部門の新設、部門に関しましては、7 月 20 日に行われます渋谷フェスタ、このチラシの方もお配りをしておりますが、東京商工会議所北支部設立 50 周年記念事業の中で、子供たち、学生の方々のビジネスプランコンテストを実施させていただきます。北区として共催をしていく予定であります。ぜひとも多くの方々のご参加をお待ちしております。

説明会、また相談会等も行っておりますので、ぜひ多くの方に興味を持っていただけたらなと思います。一般枠に関しましては、最優秀賞の賞金が 50 万円です。区としては頑張っておりますので、ぜひ多くの方に応募をいただけたらというふうに思っております。また、ファイナリスト賞、賞金 5 万円、渋沢栄一賞も今回ございます。また、学生枠は金賞、銀賞、銅賞、3 つの賞を設けています。ぜひ皆様のご応募をお待ちしております。

続きまして、デマンド型交通の実証実験開始についてであります。区といたしまして、これまで北区公共交通計画における区内での公共機関のより拡充、より便利にしていくということでは、区内 7 地域に分けてまして順次その拡大を行って来ました。

これまではですね、各地域でコミュニティバスを中心とした導入をしてまいりましたが、やはり今、デマンド型交通などさまざまなものがございますので、改めてデマンド型交通の実証実験を行った上で、今後の北区公共交通計画の改定の見直しにしていきたいなというふうに考えています。

今回、王子東地区、エリアとしましては堀船地区に導入をしてまいります。こちらはですね、区内 18 カ所ポイントがありまして、そのポイント間、予約制ではあるんですけども、ポイント間移動する公共交通となっています。事前のお電話かインターネットからの、1 時間前までお願いしたいんですけども、予約をしていただいて、大人は 300 円、お子様は 150 円でお乗りいただけます。

区役所や王子駅南口、また病院ですとか、堀船地域と、そういった公共機関、施設も含めたポイントとなっておりますので、ぜひともご活用いただきまして、来年の、7 年 3 月 31 日までの実証実験、これをもとにいたしまして、今後のデマンド型交通の公共交通サービス導入に検討の一つとしていきたいなというふうに思っております。ぜひご活用いただきたいと思います。

今日、このチラシの方もご用意しております。また、明日 6 月 26 日が出発式となりますので、多くの方々のご取材もぜひお待ちしております。

そして六点目です。いよいよパリオリンピックがですね、来月、約 1 か月後に 7 月 26 日からのオリンピック開催となります。オリンピック・パラリンピックに向けて、私たち北区としてもできることを今考えておりました。

北区には、トップアスリートの方々が練習場所とされているナショナルトレーニングセンター、第 2 トレセンも含めまして、またこのオリンピック・パラリンピックの方々とこの区の交流も大変強く持たせていただいております。北区は「トップアスリートのまち・北区」という、掲げまして、多くのオリンピックの方々にも区内の学校、子供たちにも直接触れ合っていたくような事業を開催させていただいております。

多くのトップアスリートの方々に区政運営の中でお力をいただいているということで、その感謝の気持ちと応援の気持ちを込めて、今回ですね、北区ゆかりのアスリート、今日は 5 名の方拳

げさせていただいております。この方々へのメッセージを区民の皆様から募集をさせていただき、各選手の皆さんにお届けしたいなという内容であります。

応援メッセージにつきましては、北区のホームページから記入していただくことができますので、ぜひとも皆さん、北区ゆかりの各選手。応援を一緒にお願ひしたいなと思います。よろしくお願ひいたします。

そして最後、二つの項目が渋沢栄一翁についてであります。

新一万円札発行カウントダウンプロジェクト、いよいよ最終盤になりました。7月3日の新一万円札発行に向けて、記念セレモニーを行いたいというふうに思います。

2019年の4月に新一万円札発行が決まり、その一万円札の肖像として渋沢栄一が発表されてから5年が経過しました。この間、区といたしましても、NHKの大河ドラマが決まったり、それに伴って大河ドラマ館、そしてお土産館を設置したり、そして区民の方々との協働や民間の方々との公民連携で、本当にさまざまな事業を、特に昨年からの1年間は新一万円札発行カウントダウンプロジェクトとして、いろいろな区民、職員の皆さんからの公募です、事業をたくさん行ってまいりました。

その最後に、当日に記念セレモニーを行いたいというふうに思っております。場所は、飛鳥山公園旧渋沢庭園の青淵文庫前の広場で実施をいたします。

この5年間、渋沢カウントダウン、渋沢プロジェクト、そしてカウントダウンプロジェクトと、多くの方々にお力をいただいた関係者の方々、皆さんにお集まりをいただきたいんですが、なかなか多くの方ですので、一部の方になります、関係者の方々とともに、そしてお祝いをしたいと思っております、あとはですね、子供たち、また渋沢翁が住まいとして飛鳥山公園にいらした、その地域の町会の方々にもお集まりをいただきまして、一緒にお祝いをしたいと思っております。

当日はですね、大きなくす玉を割ると、それから小さなくす玉をみんなで割っていく。また、区内の保育園、幼稚園でもそれぞれの時間になりますが、お祝いをさせていただくようなご案内もしております。

旧渋沢庭園青淵文庫前での記念セレモニーが一つ。そして、区内の各小中学校でも一緒にお祝いをしてもらいたいということですね、渋沢翁が好んで食べたお料理、食材などを使ったですね、給食を各学校で7月3日には用意をしていただきまして、それを食べながらみんなで祝いしていこうという企画であります。私も当日は一つ学校にしぶさわくんと一緒に行きたいというふうに思っています。渋沢翁に関する普及啓発や食育を、あわせて実施してまいります。

そして、令和6年、今年の5月にリニューアルオープンをされました城北信用金庫王子銀座出張所がしぶさわくん支店としてリニューアルされました。

この隣の王子一丁目遊び場ですね、イベントを開催されます。区内企業の物産展や体験イベントなど、北区観光協会、そして民間事業者の方々との公民連携で実施をさせていただきます。

しぶさわくん支店内では、しぶさわくんによる新券の両替を実施するなど、楽しいイベントも

企画されているというふうに伺っておりますので、ぜひ飛鳥山公園、そして王子一丁目遊び場などお越しただけたらなというふうに思っております。よろしく申し上げます。

7月3日は、区内全体で、渋沢翁の新一万円札、肖像となることのお祝いをしていきたいと思っております。

そして最後です。八番目は、これはですね、私、やまだ調べなんですけど、全国で初ではないかと、今調査中ではありますが、渋沢翁の名前を道路の愛称にしていくっていう取り組みをいたします。

王子駅、JR王子駅中央口から渋沢翁が暮らした飛鳥山を通り、お札の、紙幣を印刷している印刷局を通りまして、国立印刷局東京工場の前を通り、旧古河庭園までの1.5キロメートル。この道をですね、今、東京都と協議中ではありますが、渋沢翁の名前を愛称としてつけていくことが決まりました。

名前をですね、区民の方々から選んでいただきたいなということで、今日、協議会の中で選ばれました5つの名称、この中で区民の方々のご応募によって、一番多い名称を通りの愛称として、11月11日、この日は青淵忌であります。渋沢翁が亡くなられた日ではありますが、青淵忌のイベントの中で決まった愛称名を発表していきたいというふうに思っております。

7月1日から8月31日まで2カ月間、ホームページからご応募いただけます。また、この2か月間、区内で各イベントを実施している会場でもですね、ご応募いただけるような準備を今しておりますので、一人でも多くの方々に、王子駅の中央口から旧古河庭園までの道のりが、渋沢翁の名前の愛称の道になるんだということを広く知っていただけたらなというふうに思っております。

7月3日の新紙幣発行で渋沢カウントダウンプロジェクトは終わりではなく、むしろこの発行から先ですね。これからもっと渋沢翁のこれまでの功績や精神、そして北区を愛した渋沢翁を、ぜひ区内外、全国、世界に発信していく取り組みを引き続き行っていきたい。その第一歩として、今回の渋沢翁の名前が道路の愛称になります、その名前を募集する、そんな企画にしたいというふうに思っております。

ぜひとも区民の方々のご応募を心からお待ちしております。これからも渋沢翁で北区を盛り上げていきたいと思っております。よろしくお願いたします。以上です。

【司会】

ありがとうございます。それでは、これより質疑応答に移らせていただきます。質問の際には、挙手のうえ、職員が持参するマイクを使ってご発言ください。まず、本日の記者会見の内容に関しましてご質問ございますでしょうか。

【質問者 都政新報】

すみません、都政新報社のドイと申します。デマンド方交通について伺います。23区でもデマンド型交通を取り入れてる区があると思うんですが、取材をする中で、なかなか乗車率が伸びないですとかっていう声を聞きます。これ令和7年3月末まで実証運行をやると思うんですが、何か乗車率の目標値など定めているかっていうのが一点と、この乗車率向上のために何か工夫されることとか、今決めていることがあれば教えてください。お願いします。

【やまだ区長】

はい、デマンド型交通、これまで本当コミュニティバスの導入で交通、公共交通をより充実させていくという考え方から、デマンド型交通を導入していく初めての考えです。やはり区内は、コミュバスが入れない狭い道も多くありますので、そういう意味ではコミュニティバスとデマンド型の小型の乗り合い、公共交通ってということが両方使えてくると、より区民の方々の利便性が向上するかなという思いで導入をしています。

本当にデマンド型、小型乗合公共交通って初めてなので、どういったやり方ができるのか、それぞれの区でもやっぱり形が違います。今回はポイントをですね、ミーティングポイントを18か所設けて、そこそこをつないでいくという形なので、ちょっとどういった採算性が上がっていくかとか、利用の不便さとか、もしくは良い点とかっていうことをきちっと検証していくことの方が、今の時点では目的は大きいので、まず利用の状況の前にですね、どういう形が、区民の方々にとって便利かな、の上で、採算性としてどういった設定が必要になってくるかなっていう検証を、3月31日まで行っていきたいというふうに思っています。

あとその工夫ですが、やはりですね、地域の方々が、この堀船地域だけではないんですけど、北区の中で、私ずっとこれまでいろんな活動していく中で一番多いのが、やっぱりコミュバスを通してくださいってというのが一番ご要望で、区内多いですね。なので、ご要望としては多いので、地域の方々にこの利用、今回初めての、特にどういうものかっていうのがちょっとわかりづらいかもしれないので、今日もこういったチラシご用意しておりますが、ちゃんとポイントだとか、予約の方法だとか、特に丁寧にですね、地域の方々にわかりやすい説明を行っていくことを工夫したいなというふうに思っています。

【司会】

ありがとうございます。他にご質問はございますか。

よろしいでしょうか。それ以外、何か全般に関しましてご質問等ございますでしょうか。

【やまだ区長】

はい、どうぞ。

【質問者 朝日新聞】

朝日新聞、イシダイラといいます。ちょっとすみません。会見の内容に戻って、最後の渋沢翁の名前の道路なんですけど、先程協議会の中で選んだってということで、何の協議会がどういう根拠で5つを選んだのかってのと、あと都和協議中ってことなんですけど、ここでこの道は何の道なのかってというのは？

【やまだ区長】

都道ですね。

【質問者 朝日新聞】

都道でいいんですね。都道何号線とかって何かあるんですか？

【やまだ区長】

ごめんなさい。本郷通りの。

【質問者 朝日新聞】

本郷通りって言われている、通称本郷通りって言われている。

【やまだ区長】

そうです。

【質問者 朝日新聞】

あとですね、区民を対象にしてるってことなんですけど、区内、当然在住在学も含めて、あと外部の人はいかがなんでしょうか？

【やまだ区長】

インターネットでご応募いただく時に、区民、例えばどこどこに在住とか在勤ってことを書いていただく欄を設けていく予定ではありますが、実際に区民の方だけを限定してってなかなか正直難しいかもしれません。ただ、やっぱり多くの方々にこの場所をご理解いただいて、渋沢翁の思いを共有しながらご応募いただけるということであればいいなっていうふうに思っています。また、協議会ですが、カウントダウン、これまで渋沢栄一のプロジェク、5年前から行っております。昨年1年間、新一万円札発行カウントダウンプロジェクトを実施しています。この実施していく中で協議会を設けまして、様々な事業をこの協議会の中で実施、検討し、進めてまいりました。商工会議所、それから国立印刷局、それと渋沢史料館関係者の方との協議会があります。

【質問者 朝日新聞】

あともう一点、その前の七番の記念セレモニーについて、もうちょっと詳しくお願いしたいんですけど、11時半からくす玉を割って、さらにもう何かありますか。

【やまだ区長】

そうですね、この青淵文庫前の広場では、本当にご挨拶と、それからくす玉を割ってお祝いするってということで、それ以外のいうイベントというか、例えば飲食があったりとか、何か催し、出し物があったりってことはここではしません。むしろですね、王子の先程申し上げた、王子一丁目遊び場の場所ではそういったイベント等を行ってまいりますので、ぜひそちらにお越しただけたらというふうに思っています。

【質問者 朝日新聞】

そうすると絵的にはこう 11時半過ぎに、一斉に皆さんでくす玉を割ってお祝いするというような。

【やまだ区長】

そうですね、はい。幼稚園のお子さんたちと、あとは地域の町会の方々と、やはり渋沢翁の西ヶ原ですとか飛鳥山にゆかりのある方々、住民の方々にもお集まりをいただく形で、100人ぐらいの規模になるかなと思っておりますが、はい。

【質問者 朝日新聞】

その後に区長さんが食事、給食、渋沢翁の。

【やまだ区長】

はい、急いで小学校の方に行きます。

【質問者 朝日新聞】

それは、取材は可能なんでしょうか。

【やまだ区長】

確認します。

【司会】

すみません。7月3日のイベント、一連のイベントに関しましては、後ほど広報課の方から記

者の皆様宛にプレスリリースで、詳細の方をお伝えさせていただく予定でございます。

【質問者 朝日新聞】

ありがとうございました。

【やまだ区長】

ぜひお待ちしております。

【司会】

他にご質問はいかがでしょうか？

【やまだ区長】

はい、どうぞ。

【質問者 都政新報】

すみません。都政新報のドイです。すみません、会見と関係ないことなんですけど、7月7日に投開票が行われる都知事選で、今回、過去最高の56人という方が出ていて、北区だと都議補選もあると思います。例えば区の選管が、例えば例年以上に人員を拡充するですとか、何か開票がすごく遅れる見込みですとか、現段階で懸念されることってというのがもしあれば、何か準備されていることとかあれば教えてほしいんですが、ありますでしょうか。

【やまだ区長】

今日の段階までは順調に、選挙公報ですとか、もちろん投票券ですとか、そういった発送はできていると認識しています。また、投開票、期日前投票所の兼務ですね。各職員がそれぞれの投票所に兼務で派遣をしておりますので、その体制の中では、現時点では、想定としては順調にいけるかなというふうに思っておりますし、あらゆる想定の中で、十分手を尽くして対応してきてるつもりでありますので、特段の今心配はしておりませんが、これも、どの選挙においても、投開票、即日開票というのは、やはり何が起こるかわかりませんので、しっかりと気を抜かずに丁寧な対応と連絡、相談をね、庁内でしっかりしていくということを心がけていきたいなというふうには思っています。

【司会】

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、以上をもちまして、本日の記者会見を終了させていただきます。ありがとうございました。

【やまだ区長】

ありがとうございました。